

「地域の論点」 論点 5 新時代を活性化するために

小島 實

新型コロナウイルス感染症の流行は、世界的に流行し、外出及び交流自粛、手洗いの徹底、マスク着用が奨励されることになりました。私はこうした社会情勢の中で何か形のあるものを発信しなければと思いながらも無為に過ごしていました。しかし、これではいけないと地元の地籍や道路、用水などの歴史環境をもとに地域の活性化を考えてみようと、「昔の南石堂町は…、妻科村は…、善光寺門前町の発展の仕方は…、善光寺平の用水は…、裾花川の氾濫の歴史は…」などと思いを浮かべていました。そうしたところ、南石堂町商店街振興組合で『地域の論点 2020～在野の知的財産の集積から見えるもの～』が発表されました。拝読しましたが大変分かりやすくなる取り組みだと思いました。私はこの出会いを契機として、より良い将来になるよう自分の想いをこの『地域の論点』に載せたいと思います。私が考える地籍、地形、歴史を基軸として、新時代の活性化について考えていきます。その上で具体的方策として、「地域の危険を知る」「災害から命を守る」「地域のつながり」「三密を避けたイベントの開催方法」などに発想を転換していき、地域の課題を解決していくべきだと考えています。

■論点の前段として「課題を知ろう、調べよう」

1. 南石堂町を中心とした年表

妻科神社の誕生（創建は不詳）	古代 691 年「持統 5 年」
妻科村石堂組は北国街道に沿う街村で、事実上善光寺町の一部とみなされていた。	
妻科村石堂組の南端に長野駅舎新設 信越線開通	近代 1888 年「明治 21 年」
市制施行により石堂町	近代 1897 年「明治 30 年」
石堂町が南北及び末広町に分割	近代 1908 年「明治 41 年」
南石堂町商興会の誕生	現代 1949 年「昭和 24 年」
南石堂町商興会で感謝祭である「蟻の市」開催	現代 1956 年「昭和 31 年」
主要道路の交通規制	現代 1962 年「昭和 37 年」
南石堂町商店街振興組合誕生 共同駐車場整備	現代 1971 年「昭和 46 年」
南石堂町商店街振興組合創立 30 周年記念誌発行	現代 2002 年「平成 14 年」
南石堂町商店街振興組合 地域の論点公募	現代 2019 年「令和 元年」

2. 「小字」など登記に用いる表記から読み取れるもの

現在、行政上の「大字南長野北石堂町・大字南長野南石堂町・大字南長野末広町」で区分されていますが、「小字」が使用されている場合、その土地の周辺や災害を受けていた状況を土地名に表しています。従いまして、小字名を聞けばその場所が分かったそうです。

また、善光寺平の南長野方面一帯は、緩傾斜地で用水は西方面の裾花川から東方面の千曲川へ流れていましたが、善光寺平には川土手が少なく、大雨が降るたびに流路が変わっていたそうです。

「妻科」・・・諸説ありますが、「しな」は段丘、「つま」は隅＝裾花川の河岸段丘を表しています。

「西河原・中河原・下河原」

・・・この地域の善光寺平の用水は、大雨が降るたびに流れが変わっていたため。

「高畑」・・・このあたりは河原の土手のようですが、普通の河原のように土手は築かれていないようです。

「幅下」・・・長野県庁は大正2年に移転し、現在住所は幅下を使用しています。

長野県庁脇に用水の分岐点である大口分水場があり、水を振り分けています。八幡・山王堰は、江戸時代に造られました。山王堰は栗田城主の管理下であったようです。

宮川・計湯川・古川 「古川は栗田城の周辺を潤している。」

「山王」・・・南石堂町地籍に栗田城主が飛び地を確保し、日吉神社を招聘するとともに用水管理をしやすようにした。

3. 町の境はどのように決められているか

石堂町の町境のほとんどは用水である「宮川・計湯川・古川」で決められています。

4. 道路に関する名称変更等

道路は、移管・新設・改修等が行われると路線名及び起終点の変更が行われています。

5. 道路の状況と危険個所を知る

ア. 石堂町の道路は、「明治・大正時代に行政で新設及び改修したものです。」

県町通り・・・中御所から北国街道と並行に長野市立図書館下までの通り

町中の通り・・・県町通りと北国街道に接続する通り

一線路通り・・・長野駅前から北国街道に接続する通り

二線路通り・・・長野駅前から町境の用水路上通り北国街道に接続する通り

中央通り・・・北国街道を整備して南石堂を起点に善光寺までの通り

イ. 石堂町の道路は、「自然道路及び昭和時代以降の道路」

通りの名称は、その道を通行止めにしても迂回することが可能な通り。

県庁から宇徳永経由の通り、さらに経由して東口方面に行く通り

バスターミナル通り・バスターミナル南通り

その他、通行止めにしても迂回することが可能な通り

6. その他

ア. 小路・路地の活用

再生やまちなかの緑、町内を回遊できる街並みの形成。

イ. 用水路の活用

南石堂町内用水路の活用ほかに、現在、町の中・町境の開渠している部分を活用して親水性を高めていけば良いと思います。

結び及び提言

1. 結び

歴史や地形を紐解いていくと、このように今日の「南石堂町」は出来てきました。その背景には町で育てた「南石堂町商店街振興組合」がものすごい勢いで発展し、近年においては町行政をリードしていく状況になっています。南石堂町商店街振興組合の組合員の目覚ましい活躍で町の運営を導いているように見えます。しかしながら、今後の人口減少及びさらなる高齢化によって、組織的な整理統合が余儀なくされる日が訪れるのではないかと懸念しています。町区と商店街の両者が協力して歴史ある「我が町」をさらに発展させていかなければならないと思います。

2. 提言

・今年度は、コロナ禍にすべての国民が対応しなければなりません。特に南石堂町商店街振興組合の組合員の活躍が期待されると思います。「地域の論点 2021」の発行を待つことなく、企画の中で検討し実行できるものは即実行することを期待します。

・南石堂町を起点に中央通りが建設されて以来、改修は行われていると思いますが、路面の傷みもひどいので、用水の暗渠部も含めて地震に対応可能な改修を必要であり、併せて危険個所の点検も行うべきです。

・町の中には通りがたくさんあります。「通り名」を知らずにいる方が多いと思いますが、通り名は知っていた方が良いと思いますし、回遊するときにも役に立ちます。ぜひ、調べてみるような運動を起こしましょう。

・コロナ感染対策に注意を払い、地域とのつながりを重視する会議や寄り合いも開かれ始めています。近隣者が縁遠くならないよう積極的にコミュニケーションを取るようにしましょう。

・小路などを利用して、近隣者や仲間 5~6 人程度の少人数で、災害発生時の対応など話し合いを持つ中で地域のつながりを深めていきましょう。

・歩道に面している飲食店は、期間限定や時間限定で道路管理者の許可を得て、歩行者の通行に支障がない範囲で、飲食物の提供や物品販売をしていくことも考えていきましょう。

・今までにないコロナ禍支援策として、小路や路地を活用したイベントを定期的で開催しましょう。例えば、町内を数ブロックに分けてグループ化して、道路を短時間でも通行止めにして開催します。夏の風物詩となっている「蟻の市」を小規模にし、子供を対象として年間を通してできれば面白いでしょう。

・「蟻の市」というネーミングからヒントを得て、「蟻＝働く人たち」「蟻＝子どもたち」ということで、『蟻の街 南石堂町』として売り出したらいかがでしょうか。

・町内にはたくさんのマンションがありますが、比較的町内の人材交流が不足しているように思えます。町を活かしていくために知恵や特技を持った人に協力をお願いするためにも人材発掘を奨励します。

・町の活動を写真にして残すことも大切ですが、会議に参加した人の意見や結果報告を記事にして残すことはもっと大切だと思います。こうした小さな蓄積が今後ますます必要になる時代だと思います。

・未来を担う子供たちの心に残るイベント開催を希望します。

(参考文献 等)

本稿で記述した地籍、歴史及び地形等については、筆者が長野県立図書館や長野市立図書館の郷土史、歴史書等を参考にしたものです。

※本稿についてのデータ及び肩書等は執筆時の2020年9月現在のものです。

※表現及び言い回し等は執筆者の原稿を活かした形で掲載しています。